

- 問1 日本の人口動態に関する統計において、東京都では他地域から引っ越してくる人数（転入者数）が、他地域へ引っ越していく人数（転出者数）を大きく上回る状況が続いています。このような人口移動の結果として生じる人口の増加を何と呼びますか。（2018年 三重県公立入試 類似）
1. 社会的増加
 2. 自然的増加
 3. 人口爆発
 4. 合計特殊出生率の向上
- 問2 千葉県の工業出荷額の内訳において、全体の20.8%を占める主要な品目があります。この品目の工場は千葉県西北部の海岸線沿いに集中して立地していますが、その品目として正しいものを次から選びなさい。（2021年 福岡県公立入試 類似）
1. 繊維
 2. 石油・石炭製品
 3. パルプ・紙
 4. 輸送用機械
- 問3 群馬県の工業に関する統計資料において、製造品出荷額等のうち約31.2%を占め、県内で最も大きな割合となっている品目はどれですか。（2021年 福岡県公立入試 類似）
1. 金属製品
 2. 化学工業
 3. 石油・石炭製品
 4. 輸送用機械
- 問4 関東地方の農業統計によると、茨城県はピーマン、ほうれん草、はくさい、レタスといった野菜の生産において全国でも有数の規模を誇っています。この地域で野菜生産が盛んになった理由として、地理的な背景と流通の仕組みから説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）
1. 冬でも温暖な気候を利用し、ビニールハウスなどを用いて出荷時期を早める工夫をしているから。
 2. 標高の高い地域が多く、夏でも涼しい気候を利用して他の地域より遅い時期に出荷できるから。
 3. 土地価格が非常に安く、広大な農地を確保して穀物生産に特化することが容易だったから。
 4. 大消費地までの距離が近いため、輸送費を抑えながら鮮度を保ったまま出荷できるから。
- 問5 関東地方の各県を比較した統計データにおいて、千葉県は「飲食料品の小売販売額」では神奈川県や埼玉県を下回るものの、「化学工業製品出荷額」ではこれらの県を大きく上回り、突出した数値を示す特徴があります。このような結果になる理由として、最も適切な説明はどれか。（2016年 長崎県公立入試 類似）
1. 千葉県は近郊農業が盛んであることから、農産物を原料としたバイオテクノロジー産業が化学工業製品として分類され、出荷額を押し上げているため。
 2. 千葉県は成田国際空港を通じた貿易額が多いため、内陸部の工場で生産された化学製品の出荷額が統計上、他県よりも多く計上されるため。
 3. 神奈川県や埼玉県は製造業からサービス業への転換が進んだ一方で、千葉県は県内全域で伝統的な重工業の維持を最優先する政策をとっているため。
 4. 飲食料品の販売額は人口規模に比例する傾向があるが、千葉県は東京湾岸に石油化学コンビナートが集中する京葉工業地域を有しているため。
- 問6 2022年の農産物収穫量に関する統計によると、全国合計約9万6600トンのうち、1位の和歌山県が6万4400トンと圧倒的なシェアを占めていますが、それに次いで3680トンの収穫量をあげ全国2位となっている県はどこですか。（2025年 長野県公立入試 類似）
1. 栃木県
 2. 長野県
 3. 群馬県
 4. 山梨県
- 問7 茨城県や千葉県などの関東地方では、東京などの大消費地に近い立地を生かした農業が盛んです。この農業形態が、消費地に近い場所で行われる理由として最も適切なものはどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）
1. 広大な土地を確保しやすいため、大規模な機械化による大量生産が可能だから
 2. 夏の冷涼な気候を利用することで、他の地域で不足する時期に出荷できるから
 3. 冬でも温暖な気候を利用することで、他の地域より出荷時期を早められるから
 4. 市場までの距離が近いため、鮮度が重視される野菜などを迅速に出荷できるから
- 問8 千葉県の農業において、大消費地である東京圏に隣接している利点を活かし、野菜などの産出額を押し上げている農業の形態を何と呼びますか。（2016年 山形県公立入試 類似）
1. 大規模農業
 2. 促成栽培
 3. 抑制栽培
 4. 近郊農業
- 問9 日本の主要な港のうち、輸出額（約5兆8000億円）に比べて輸入額（約10兆5000億円）が極めて高く、輸入品目の上位に衣服、コンピュータ、魚介類などの消費財が並ぶ港として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2018年 愛知県公立入試 類似）
1. 神戸港
 2. 名古屋港
 3. 東京港
 4. 横浜港
- 問10 標高約1000mに位置する群馬県嬬恋村と、海岸付近に位置する千葉県銚子市のキャベツ生産を比較したとき、嬬恋村の出荷時期における工夫として最も適切な説明はどれですか。（2026年 和歌山県公立入試 類似）
1. 大消費地に隣接している利点を活かし、鮮度を保つために一年中一定の量を出荷する。
 2. 標高が高く雪が多いため、冬の間に温室ハウスを用いて出荷時期を春にずらす。
 3. 夏の冷涼な気候を活かし、平地での生産が困難になる7月から10月にかけて出荷量を増やす。
 4. 冬の温暖な気候を活かし、他の地域よりも早い1月から3月に出荷を早める。
- 問11 東京圏の人口動態を分析すると、東京都の昼夜間人口比率は119.2に達している一方、埼玉県や千葉県などの周辺の県では100を下回る数値となっています。このような統計上の特徴から読み取れる、東京圏における都市の機能分担と生活スタイルの説明として正しいものはどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
1. 東京都に事業所や大学などの都市機能が集中し、周辺の県が主に居住地の役割を担っている。
 2. 周辺の県から東京都へ移住する人が急増した結果、周辺の県の夜間人口がゼロに近づいている。
 3. 東京都内で昼間に農作業を行う人が増えたため、一時的に人口が急増している。
 4. 周辺の県に大規模な工業地帯が建設され、東京都から工場労働者が大量に流出している。
- 問12 日本の工業出荷額の統計において、中京工業地帯に次ぐ規模を維持し、近年その割合を上昇させている北関東工業地域の背景について、正しい記述はどれですか。（2022年 佐賀県公立入試 類似）
1. 東京に近い利点を活かし、中小規模の工場による印刷業や食料品工業が都市部で高度に発展したため。
 2. 豊富な地下資源と水力発電を利用するために、山間部へアルミニウム精錬工場が数多く誘致されたため。
 3. 太平洋沿岸の良好な港湾施設を活かし、海外からの原料輸入に依存する鉄鋼業や石油化学工業が発展したため。
 4. 高速道路を利用したトラック輸送の利便性を活かし、内陸部に電気機械などの加工組立型工業が集積したため。
- 問13 日本の工業の変遷において、1960年から2014年にかけて北関東工業地域が製造品出荷額の割合を飛躍的に高めた主な要因として、最も適切なものはどれか。（2018年 高知県公立入試 類似）
1. 周辺に広大な炭田が存在し、安価なエネルギー資源を確保できたため
 2. 掘込港湾の建設が進み、大規模な臨海型コンビナートが形成されたため
 3. 関東大震災後に、過密化した都心の工場が一斉に移転してきたため
 4. 高速道路網の整備により、内陸部への工場の進出が容易になったため